『藤農便り』 第36号

宮本茶園　宮本透

藤野に移住して10年目に入りました。藤沢暮らしで使っていた家電製品も寿命を迎える物があり、先日は洗濯機を買い替えました。独居老人にとって大型家電製品買い替えは思いのほか難儀な問題です。近隣のホームセンターには有料の配送・産廃処理サービスが無く、洗濯機購入ではサービスが受けられる店を探すのに苦労しました。アミーユ月曜サロンで話題にすると橋本さんが「隣のスタジオが引っ越しするので部屋を片付けているけれど、冷蔵庫を貰う？」と言われます。20年程前に購入した大型冷蔵庫は故障も無くずっと使っていましたが電気料金も割高なようでこの機会に廃棄処分して、スタジオの物をいただく事にしました。

アミーユ仲間に手伝ってもらい搬送・入れ替え作業をしましたが、大型冷蔵庫は重く老人の力では動かせません。後日息子に年休をとってもらい、古い冷蔵庫を青山にある津久井クリーンセンターへ搬送しました。午前中で作業が終わり、昼食後は息子家族と富士五湖巡り観光を楽しみました。カンボジア人の連れ合いは富士山を間近に眺めて大喜び、訪ねた湖畔毎に記念写真を撮っていました。息子は小さい頃に富士山ドライブをした事を覚えていて、懐かしがっていました。久し振りの家族旅行、きっかけを作ってくれた橋本さんに感謝です。

・春の茶仕事

２月半ばJA神奈川つくい本店から連絡があり、援農ボランティアを養成する農業セミナーの研修受け入れ農家に藤野茶業部が登録されました。２名の受講生が研修を希望し、藤野支店で顔合わせを兼ねた打ち合わせをしました。和田・上岩茶園を案内しながら藤野茶業部の活動を紹介して研修内容を検討し、３月から茶園管理作業を手伝っていただく事になりました。上岩では数年前に藤野茶業部が耕作放棄茶園再生の取り組みをしていましたが、部員減少と高齢化のために活動は中断しています。援農ボランティアと一緒に茶樹を覆った枯草を取り除いて畝間に敷き込み、続いて剪枝機を使って徒長した枝を切りそろえる作業に取り組みました。茶葉摘採に向けて野良仕事が忙しくなるまで根気よく作業をした成果をご覧ください。「日本の里100選」佐野川の茶畑景観復活、新しい仲間を得て再び歩みを進めます。(写真①)

2022年より佐野川茶用荒茶は愛川工場で加工していましたが、茶業運営委員会で昨秋JA県央愛川が荒茶工場を売却し足柄茶生産事業から撤退したので今年度は生葉の受け入れができないと伝えられました。愛川工場は茶葉揉捻技術が高く、消費者から「佐野川茶は美味しくなったわね」と評判がよかったので正に青天の霹靂の出来事でした。春肥・春整枝と茶園管理作業の合間に部会で対応策を話し合ったり県農業技術センターに相談したり、佐野川茶用荒茶製造を引き受けてくれる荒茶工場を探しました。４月になって清川村のJAあつぎチャピュア清川茶工場が受け入れてくださる事になり、茶葉摘採作業準備に安心して専念できるようになりました。

４月19日県農業技術センターの茶園巡回指導があり、各茶園の新芽開葉数と長さを調べて摘採日程を検討しました。昨年は人手不足で茶葉摘採作業が出来なかった茶園があったので、作業人員の確保に全力を尽くして取り組みました。摘採作業は摘採機操作に２名、摘採袋を１名が持って行うのが基本です。２台の機械を使って作業するには６名、茶葉の入った摘採袋を日陰に運び搬送用ネットに詰め替える作業する人が必要で、最低１日７名の作業人員をそろえなければいけません。摘採日程は７日間、ヘルパーの３名は全日仕事を引き受けてくださり家族・知人・友人を加えると作業日毎に7～10名が集まって全茶園の茶葉を収穫できました。(写真②)

摘採翌日に出来上がった荒茶は茶来未工場に搬送しました。早朝から摘採作業の準備をして道具を片付けた後に乗用車で清川村に向かい、荒茶を載せて藤沢市まで届ける日が続きました。昨年は体調を崩して歯がゆい思いをしましたが、66歳になってこれだけ働ける気力・体力がある事を誇りに思います。茶来未の佐々木社長に荒茶の講評を伺い、試飲させていただきました。たくさんの方々に応援してもらい出来上がった今年の佐野川茶、爽やかな苦みと甘みが口の中に心地よく広がり感慨無量です。新茶販売の準備を進めていますので、もうしばらくお待ちください。(写真③④)

①

②

③

④

・野草の天ぷらとお茶摘みの会（4 月 21 日：東京学芸大学　環境教育研究センター）

会場の学芸大には中央本線に乗って向かうのですが、今年は軽トラで彩色園に出かけました。正月頃より国分寺市から荷物を運ぶアルバイトをしています。都内を車で走るなど考えもしなかったのですが、高速道路を利用しなくても藤野から 1 時間半程で国分寺に到着できる事を学習しました。藤野観光パンフレット・茶摘み体験案内等観光協会から預かった資料をたくさん持ち込んで、参加者に藤野を紹介する事ができました。

今年は桜の開花が遅く当日に新芽が伸びているか心配でしたが、彩色園の茶畑は一芯三葉で摘み頃でした。昨年はコロナ禍で 50 名限定申し込みの参加者でしたが、今年は人数制限無しで参加者・スタッフを合わせると 100 名超の大盛況！親子連れが多く微笑ましい光景がたくさん見られました。(写真⑤) 午後から雨降りの天気予報で空模様を気にしながら茶葉を摘む事 1 時間、2.3kg の葉が収穫できました。前日にスタッフが新しい和紙を貼ってくれたホイロで蒸した茶葉を揉んでいきます。子どもたちが喜んで作業に取り組み、助炭にはかわいい手が賑やかに踊っていました。味を出すにはもっと力強く揉みたいと思いましたが一心不乱に小さな手で葉を揉む子どもたちに口出しする事は余計なお世話、黙って見守りました。お土産にいただいた手揉み新茶はアミーユ月曜サロンでいただきました。佐野川茶とはまた違う渋みに青臭さがほのかに漂う香りで、初夏の味を皆で楽しみました。INCH の伝統行事、ずっと続けたいものです。(写真⑥)

⑤

⑥

・春の雑穀畑・花卉畑

冬の間に剪定枝を燃やしていた雑穀畑•花卉畑ですが、3 月下旬～4 月中旬は内郷に出かけて動物堆肥を運びました。肥料袋に約 10kg 入れた堆肥を 35 袋軽トラ荷台に載せて傾斜地の畑に降ろす作業は重労働ですが、真夏に色鮮やかに咲き誇る草花と秋の雑穀収量に努力の成果が得られるやりがいのある野良仕事です。(写真⑦)

雑穀畑を耕耘機で中耕していた時の出来事です。地主の田村さんから電話がかかってきました。何事かと戸惑っていると「そんな浅い耕し方ではダメだ。トラクターを頼んでやるからもっと深く耕せ」と言われます。しばらくするとトラクターがやって来ました。私が額に汗して一日がかりで耕した場所はあっという間に深耕されていきます。畑の耕起は収穫後と植え付け前に行うのですが、管理作業用の小型耕耘機を使っているので地表をひっかく程度です。雑穀栽培講習会でも木俣師から「この畑は土が固いのでもっと深く耕しなさい」と度々指摘されていました。普段から私がしている拙い野良仕事の様子を見守り、救いの手を差し伸べてくださった地主さんに深く感謝いたします。(写真 8)

自宅ベランダでは花苗作りを始めました。最近は老眼が進みアスターの小さな種子をピンセットでつまんでプラグトレイに入れていく作業にてこずっています。これからヒマワリ・ヒャクニチソウを播種しながら植付け準備をします。相模湖・ダム建設合同追悼会実行委員会の吉田さんは今年も生花栽培を一緒に取り組んでくれます。戦後 79 年、米日政府が画策する中国侵略戦争を絶対に許さない思いを込めて花苗を育てます。(写真⑨)

⑦

⑧

⑨

※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本（携帯：090-2205-8476
e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp）へご連絡ください。